

## 七面社記

匠 瑳 探 訪

154

七面大明神は「七面天女」とも呼ばれ、日蓮宗寺院でまつられます。市内では、内山(豊和地区)妙廣寺、木積(豊栄地区)圓實寺、入山崎(吉田地区)金蓮寺などでまつられています。

今回紹介する「七面社

記」は、金蓮寺の七面天女の由来を、1720(享保5)年に当時の飯高檀林化主(檀林長)日潮が記したものです。

この社記には入山崎・七面社に関連した2人の僧侶の名が出て来ます。社記を依頼した日真

と七面社を開いたとされる日行です。日行は飯高檀林の副檀林長に当たる玄義講主を経て、堺(大阪府堺市)妙国寺と中山(市川市)法華経寺の歴代住職に就いたとされますが、いずれも1716(享保元)年に亡くなった後、歴代に加えられたようです。

入山崎区でかつて郷山と呼ばれた共有地に、日行を埋葬したとみられる小塚があります。この塚の上に墓石を立てたのは弟子の日真ら3人の僧侶で、堺で生まれた日行は、眼病にかかりここで亡くなったと刻まれています。七面天女は本紙平成28年2月号で紹介したように、1650年代にはまつられていたと考えられます。この社記は日行の業績として書かれたものなのでしよう。

(市文化財審議会委員・

依知川雅一)

問 秘書課広報広聴班

TEL 73・0080



入山崎区にある日行の墓石